

教会からのオススメの一冊

漫画「幸せなら手をたたこう誕生物語」

西岡由香・作 / 木村利人・監修
(いのちのことは社フォレストブック発行)

「幸せなら手をたたこう、幸せなら態度で示そうよ」と歌うこの歌は、おそらく誰もが知っているのではないのでしょうか。けれども、この歌が、スペイン民謡が元になっていることや、平和を願う心から生まれたことをご存知でしょうか。さらに、この歌詞の背景に聖書の言葉があることは、ほとんどの方が知らないかもしれません。

この歌の生みの親、木村利人(りひと)は、幼少期に戦争と終戦を体験したので、平和な時代が



訪れてほしいと希望を抱きながら過ごしました。伯父の影響でクリスチャンになった彼は、25歳のとき、フィリピンでのワークキャンプに参加します。そこで目にしたのは、

戦時中に日本兵に痛めつけられ、愛する人を虐殺された人々の姿でした。苦悩する彼の目に、この聖書の言葉が留まりました。「すべての国々の民よ、手をたたけ。喜びの声を持って、神に大声で叫べ」。たとえ奪われたものや傷ついた心は元には戻らなくても、その人たちを愛して祈ることができる。自分は、神様の前でそのような心を態度に示して生きていける。その態度は手をたたいた音のように必ず伝わる。そう確信した彼は、現地の子どもたちが歌っていたスペイン民謡に合わせて、この思いを詩にしました。「幸せなら手をたたこう」の誕生です。やがて、坂本九の耳に届き、彼の歌声でレコードが出され、ヒット曲となりました。

この歌は、今も多くの人々に愛され、歌い継がれています。本書は読みやすい漫画です。ぜひ読んで、この歌を味わってはいかがでしょうか。

「イースターin宝塚」レポート

4月13日(土)に当教会で「イースターin宝塚」(講師:守部喜雅さん)が開かれました。「あなたの敵を愛せよ〜坂本龍馬を斬った男の回心〜」という題でお話されました。

作家・司馬遼太郎は著書「竜馬がゆく」の中で、坂本龍馬を斬ったのは、今井信郎(のぶお)という人物だろうと記しています。彼は、龍馬暗殺を実行した後、どのような人生を送ったのでしょうか。記録によれば、今井は各地で転戦の末に捕えられて厳しい取り調べを受けますが、政府の大赦で放免されます。その後、静岡県で茶の栽培に加わります。ある時、茶の取り引きのために訪れた横浜で、教会の前を通りかかりました。ふらっと教会の中に入り、牧師の説教を聞いた今井の心を、聖書の言葉が捕らえました。「わた

しが道であり、真理であり、いのちなのです」という、キリストが語った言葉です。これが彼の人生の転機となりました。クリスチャンになった彼は、かつて全身にみなぎっていた殺気と傲慢さが消え、温厚で人に仕える人柄に変えられました。

聖書の言葉は人を捕え、その人生を変えます。どんな人も、神様は見離さず、導いてくださいます。



宝塚栄光教会

牧師: 岩間 洋

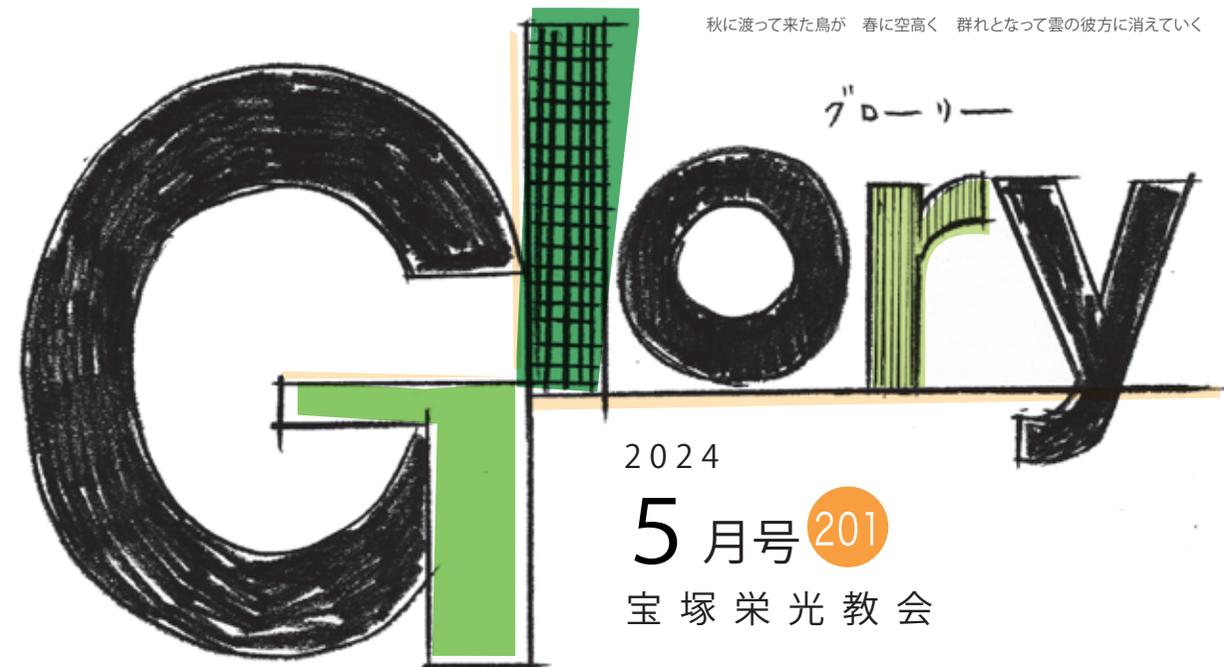
〒665-0021 宝塚市中州1-15-9 TEL:0797-73-6076

E-mail: info@takara-eikou.com https://www.takara-eikou.com



礼拝 毎週日曜日
10:30~11:40

希望のダイヤル(聖書のお話)
0797-77-3746
毎週更新。24時間つながります。
ホームページからも利用できます。



ここにこそ真の愛が

キリストの教えを一言で言うなら、愛の教えです。愛にもいろいろあります。親子の愛、友だちとしての愛、異性間の愛…。「愛」という言葉には、とても美しい響きがあります。愛は、人の心を温め、慰め、励まします。

しかし、愛は、時には憎しみに変わることがあります。そして、人を癒すはずの愛が人を傷つけ、人を生かすはずの愛が人を殺すということが、往々にしてあるのです。それは、その愛が人間から出た愛だからです。どんなに「あなたを愛しています」と言っても、結局は、自分が愛されたい、自分が満足したい、自分がいい思いがしたい…というように、全部自分に向かってくる愛なのです。ですから、自分が傷つけられたり、追いつめられたりすると、愛が憎しみに変わったりするのです。人間の愛の限界です。

神様の愛は、全く違います。聖書にこう書かれています。「私たちが神を愛したのではなく、神が私たちを愛し、私たちの罪のために、なだめの供え物としてみ子を

遣わされました。ここに愛があるのです。」(ヨハネの手紙第一4章10節)

神様は私たちを愛していてくださいます。その愛は、報いを求める愛ではなく、私たちが一方的に愛してくださる愛です。自分に向かう愛ではなく、相手に与え尽くす愛です。私たちが、神様を知らず、神様に敵対し続けていたときに、私たちのためにイエス・キリストをお送りくださいました。「なだめの供え物」としてです。私たちが受けるはずの神様の怒りを、しずめるための犠牲という意味です。

キリストは、罪のない神の子でしたのに、十字架にかかって死なれました。私たちの受けるべき裁きを、代わって受けてくださったのです。それが、私たちが罪を赦され、裁きから免れる唯一の道だったので、ここにこそ真の愛があったのです。

この愛はあなたに向けられています。あなたが今、どういう状態であっても、神様はあなたをとことん愛されるのです。どうぞこの愛をお受け入れください。



「カンパニュラ・メディウム」－初夏の花－

5月 若葉のみずみずしさに誘われて 足を延ばしてみる
時折 風が強く吹く時もあるが 季節の移り変わりを味わっている

5月の花 カンパニュラの仲間は 非常に多い
その数は 300を越えると言われている
日本に自生する ホタルブクロも 原種のひとつだ

その中で よく知られているのが カンパニュラ・メディウムで
日本では フウリンソウや ツリガネソウの名で 呼ばれている

カンパニュラ・メディウムの野生種は
原産地のフランス南東部から イタリアの半島に分布し
標高1500mの 日当たりの良い岩場に広がっている

名前のカンパニュラは ラテン語で「小さな鐘」という意味である
英語では ベルフラワーと呼ばれ
日本でも 古くから愛されて親しまれてきた

カンパニュラ・メディウムは 初夏に咲く花である

釣鐘型だが 咲く方向は 下向きは少なく
ほとんどが 横を向いたり 上を向いたりしている
草丈は 30cmから1mほどで
ぐんぐん伸びていく

じっと眺めていると 何かを 語りかけてくるような花である
多くの人に愛された花だから
その愛をもって 励ましや慰めを 与えているのだろう

神の愛によって 自分を守り 永遠の命へ導いてくださる
わたしたちの主イエス・キリストの憐れみを 待ち望みなさい

ユダ21節 (聖書)